

審査の結果の要旨

氏名 川崎 成一

我が国の高等教育機関、とりわけ私立大学は、18歳人口の減少から厳しい経営環境を迎えており、教育研究活動の充実に加え財務基盤の安定強化が求められている。しかしながら、私立大学の財務については情報開示の進展にもかかわらず、その詳細は明らかにされることは少なく、客観的なデータに基づく財務構造や経営の質に関する分析や提言はマクロな構造変化や個別の事例研究が多い状況であった。

本論文は、従来の研究が授業料などの収入と人件費などの費用の差額（帰属収支差額）に着目し、資産や負債のストック項目が補完的な分析対象にとどまっていた限界を克服すべく、収支に反映されない資金の動きを把握できるキャッシュ・フローに注目し、資金と資源のフローとストックの関係を有機的に関連させ私立大学の財務行動を分析することとしている。このため、公表されている学校法人の財務情報などにつき科目を統一して全国的なデータベース化及び現行の財務諸表から独自にキャッシュ・フロー計算書を作成する作業を実施し、私立大学の全容を解明するに必要な469法人（大学を設置している学校法人は2010年で541法人）のミクロ単位のデータ整理を行っている。

第1章では1960年代から1980年代における日本の私立大学の財務構造と資金調達行動について整理する。そして、第2章は1980年代以降の私立大学全体のマクロ、法人単位のミクロにつきキャッシュ・フロー分析を行い、教育研究活動、投資活動、財務活動及び施設設備活動のフローの組み合わせから8つのタイプに分け、従来の帰属収支差額に着目した分析やストックの変動との関係を明らかにする。第3章では、このキャッシュ・フローの区分とタイプを利用し、大学の財務行動がストックと持続可能性に与えた影響が分析される。続く第4章から第7章はストック面の分析であり、第4章は、金融資産に焦点をあて、資産運用の現状と分析を行う。第5章は、私立大学の資産運用のリスク管理につき投資理論に基づくALM手法を用いたシミュレーション分析を行う。第6章は、私立大学における短期借入の果たした役割と不動産担保について事例研究を行う。第7章は、私立大学の外部負債（長期借入）調達のメカニズムを統計手法による要因分析により明らかにする。第8章と第9章は持続可能性の分析であり、第8章では資金繰りに関連する信用リスクにかかる格付け評価シートを考案し、データ入手可能な大学につき格付けの悉皆評価を行う。第9章は、格付け評価に基づき私立大学の「破綻」の可能性（デフォルト確率）について推計を行う。最後の第10章は、分析の要約と政策的含意及び残された研究課題を示す。

本研究は、キャッシュ・フローを既往の収支やストックと結びつけることで資金調達による一時的な負債増加が授業料収入の増加等により財務的安定につながったことや逆に経営が厳しい大学が資産取り崩しで財源を確保している等のメカニズムを明らかにした点に意義が認められる。よって、本論文は博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。